「山高神代桜」の苗植樹　山梨の北杜市から寄贈　楢葉

楢葉町の復興植樹祭は１１日、天神岬スポーツ公園で行われ、山梨県北杜市から贈られた日本三大桜の一つで樹齢２千年といわれる「山高神代桜」の子孫樹の苗木を植えた。

苗木は平成２０年１１月から約８カ月間、宇宙ステーションで保管され、地球に帰還した「宇宙桜」から芽を出し、山高神代桜の孫に当たる。一般財団法人ワンアースの仲介で楢葉町に贈られた。

松本幸英町長が「山高神代桜の子孫樹がこの地に根付き、見事に咲き誇ることで、町の新たな復興のシンボルとなるよう大切に育てたい」とあいさつ。北杜市の菊原忍副市長、ワンアースの長谷川洋一代表理事、山高神代桜の桜守の三枝基治さんが祝辞を述べ、宇宙飛行士の山崎直子さんのメッセージが上映された。

松本町長、菊原副市長、楢葉中生や楢葉北、楢葉南両小の児童らが苗木に土と水をかけた。東日本大震災が発生した午後２時４６分に合わせて黙とうした。

シンガー・ソングライターのしゅうさえこさんが追悼の思いを込めて「きぼうの桜」「花は咲く」などを披露した。

植樹祭後、世界的トランペット奏者の近藤等則さんがミニライブを繰り広げた。

（ 2017/03/12 10:54 カテゴリー：主要 ）

桜の苗木に土をかける松本町長（左から２人目）ら